

第32回 ふじの花まつり

夜は藤棚をライトアップ 夜藤もお楽しみください
4月24日(土)～5月13日(土)

令和5年 4/29(土) 30(日)

Instagramフォトコンテスト開催
応募期間:4月24日～5月13日

藤島地区地域活動センター		藤島歴史公園 Hisu花	
●ふじの花盆競展	29日(土)・30日(日)	●ふじの花マルシェ（出店）	29日(土)・30日(日)
●ふじの花芸術文化展	29日(土)・30日(日)	●物産販売	29日(土)・30日(日)
●むかし話語りコーナー	29日(土)	●オープニングイベント（稲魂太鼓）	29日(土)
●星茶	29日(土)	●働く車の展示試乗	30日(日)
●藤グッズ、盆栽販売	29日(土)・30日(日)	●Ikatakoさん公演・コースター滑り	30日(日)
藤島体育館		東田川文化記念館	
●グラウンドゴルフ大会	5月6日(土)	●藤の花写真展	5月12日(土)～28日(日)

主催 / ふじの花まつり実行委員会 お問合せ: TEL.0235-64-2229 (ふじしま観光協会)
共催 / ふじしま観光協会・鶴岡市・JA庄内たがわ藤島支所・羽根町工業藤島支所・藤島芸術文化協会・Hisu花ワークショップ

ラムサール登録湿地の近傍に、風力発電の適地は存在しない

ジャパン・リニューアブル・エナジー(株)（JRE社・東京）が、加茂地区に計画している大規模風力発電施設について、皆川治市長は2月1日、ラムサール条約登録湿地の近傍であることを、中止を求める意見表明を行いました。

来に明るい光が差す」「中止申し入れは住民の夢を打ち砕く」として、3月市議会に、「鶴岡市の中止申し入れの撤回と調査の継続を求める請願」を提出しましたが、市民文教常任委員会が継続審査としました。

請願の紹介議員は、新政クラブの尾形昌彦・渋谷耕一議員です。この請願に対し、「出羽三山の自然を守る会」だよりNO285」で、基本的な問題について触れていますので、一部抜粋で紹介いたします。

○この計画はあくまでもJREの一企業体の計画であり、市が率先して事業の説明に当たるものではない。

○「調査」はJREが実施しているもので、市が行うものではない。

○ラムサール条約登録湿地に認定されるまで、地元の自然研究者たちが、長年積み重ねた調査データが既に十分ある。認定後も自然環境が維持され、その状況は自然研究者が毎年環境省に報告して、改めて調査は不要。

○現在、上郷地域の矢引地区に計画されている風力発電でさえも、環境省ではラムサール登録湿地から5キロと離れているが、それでも「近接している」ということで問題にしており、矢引から高館山に至る山麓に、風力発電の適地は存在しない。（イメージ図は、「反対する会」チラシから）



今泉地区の住民説明会(2022.10.30)で、JREが示した図を見やすくしたもの

○「調査」はJREが実施しているもので、市が行うものではない。

○ラムサール条約登録湿地に認定されるまで、地元の自然研究者たちが、長年積み重ねた調査データが既に十分ある。認定後も自然環境が維持され、その状況は自然研究者が毎年環境省に報告して、改めて調査は不要。

○現在、上郷地域の矢引地区に計画されている風力発電でさえも、環境省ではラムサール登録湿地から5キロと離れているが、それでも「近接している」ということで問題にしており、矢引から高館山に至る山麓に、風力発電の適地は存在しない。（イメージ図は、「反対する会」チラシから）

村の四季 43

鈴木重雄(八色木)

稲揚げ

秋桜（コスモス）は種を蒔いておくのでもないが、毎年種がこぼれて大きな株になって、たくさんの花が咲く。庄内柿も色づき、収穫の時期を迎える頃、田んぼの稲揚げをしなければならぬ。

今は稲刈りもコンバインなので、稲揚げの作業は省略されている。農機具がこんなに普及する前は、どこの農家でも家に運んだ。子どもたちも土曜日、日曜日はもちろん、学校から帰ると手伝った。杭掛けされた稲束の先を揃えて10束ごとに藁のツナギで縛り、畦に積んでおく。農家によっては、穂と穂中に組ませて両端をツナギで縛る。2束まるきにする家もある。運ぶ途中に粗がこぼれないようにするためであった。子どもたちがヤセウマ（背負梯子）を背中につけ、自分の体力に合わせて稲束を背負い、田んぼの中から荷車の通る道路まで出す。ヤセウマとはよく名付けたと思う。

子どもが背負うヤセウマに、稲まるきの女たちが子どもにそっと稲を乗せてやる。昨年は4束背負った子どもが、今年は6束になった。自分でも丈夫になったと思ったものだった。

高学年（高等科）になると、10束をヤセウマに縛り、自分で立ち上がるようになった。道路に出した稲を荷車に積むのであるが、道路は馬車が1台通るだけの幅で交差できないので、他の稲の積んだ馬車が来ないのを見計らって積み上げる。後続の車を待たせることもあるが、お互い様で、待っている間は今年の作柄や明日の天気などの雑談をしている。農道のぬかるみを避けながら車を引き、家の入口前に敷いているムシロの上に稲を置き、そこから稲倉や家の2階、天井裏まで積み上げた。

暗くなるので電球を照らし、みんなで庭から稲倉に運ぶ人、その稲を2階に放り投げる人、2階で積む人、防火訓練のような作業であった。電球が届かない所は、提灯をつけて明かりをとることもあったので、よくよく注意しなければならなかった。



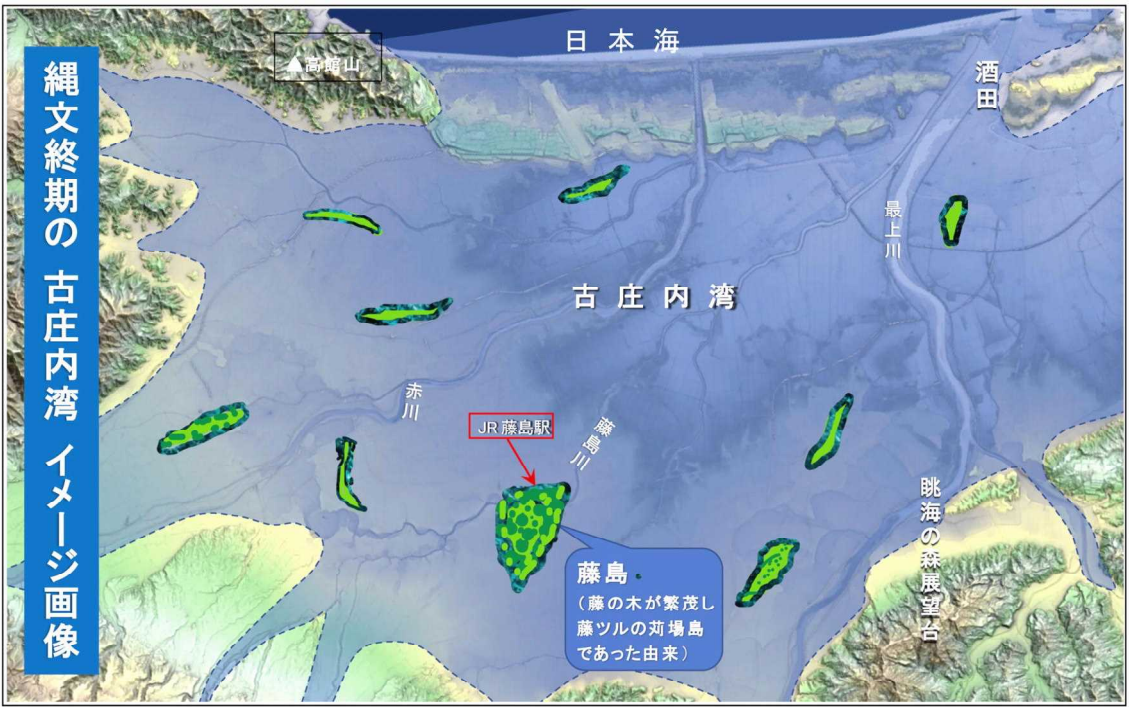
暗くなるので電球を照らし、みんなで庭から稲倉に運ぶ人、その稲を2階に放り投げる人、2階で積む人、防火訓練のような作業であった。電球が届かない所は、提灯をつけて明かりをとることもあったので、よくよく注意しなければならなかった。

福井市藤島町と 鶴岡市藤島の地名ルーツ

大阪府和泉市の福井正治氏から、編集部にメールが届きました。福井氏は、自身の故郷の福井県嶺北地方にある「藤島」等の地名の研究を続けているとのこと。

氏のHP（『古地名と地形が語る古代歴史ロマン』＝ブログペンネ

ーム・泉州閑爺）によれば、福井市藤島町は福井平野にあり、今から2千年前は、九頭竜川（くずりゆうがわ）の三角州の中州に、平坦微高地の島があつて、弥生人は、藤ツタ刈と米作りが出来る豊潤な島を、「フジのシマ＝藤の島」と名付けて呼ん



P/Cソフト「スーパー地形・海進シュミレーション」から作成（泉州閑爺HP）

だ。

自然の植物名を示す「フジ＝藤」や、地形名を示す「シマ＝島」等の呼称、更には、固有の地名を表す複合語の「ノ・ハラ＝野原」や「フジ・ワラ＝藤原」等は、多少の発音・音韻変化があつたにしても、縄文時代から存在した古地名である。

山形県の庄内平野は、縄文海進ピーク時には海水が流入し、海の入江であつた（上図）。

越前の「藤島」と同様に、藤島川沿いに形成された「藤の繁茂する島＝藤島」が、地名由来であつたと推察。

更には、庄内平野は、古代越前が本拠であつた越の国の北限支配地であつたことから、古代の越前鯖江地区と酒田・鶴岡地区には、人的・文化的交流もあつたはず。

もしかして、同じ地形の呼称が、越前藤島から鶴岡藤島に伝搬された（若しくは、その逆の）可能性もある。「越前の白崎」を名乗った酒田の豪商・越前屋白崎五郎衛門家の存在など、意義深いとされています。

での仕事、布団縫い・肌着づくり。ジャケツの切れを編んだり、私たちの冬支度をする母を書いている。そして。

とうきょうの八郎おじさんが、おかあさんがくびになつたので、そうだんにきました。（略）こんなことをそうだんした。

（5人の子がいては大変と2人の兄は親戚に預けるといふことだつた。ひでは）

「みんななかよく、はたらいていいたら、たべていけるでしょう」といふた。そして八郎おじさんはかえつてい

た。それからひではわたしの子のいえのしごとをみんなでするようになつた。

おかあさんがいそがしいから、ちやわんをあらう日をきめた。宏ちゃん 月火水 哲ち



急がないと

先日、友達数人と厚揚げ（通称座布団）で一杯やったのだが、その時、自分の話しに本当にビックリしたんだ。昨年中の出生数が80万人を切つたという事は、この子たちが全員結婚して1組が2人子どもをもうけたとして80万人足らずなんだ。今みたいに1組が2人より減ることになれば、日本の人口は？ 藤島はどうなつてい

やん 木金土 月曜日 はわたしと惇ちゃんとかあちゃんです。（略）それからおかあさんは、毛糸をもつてきてうつた。でもおかあさんは、なかなかうちからでられないので、すこしでもひまがあると、そこらのきんじょにいて、すこしうってき

それからマントを持つてくると、おとうとのきるぐらいのものがあつた。うちじゅうはしりまわりました。（略）

▲今が良ければ・お金になれば・自分が良ければ・そして、なんでも自助なんて個人へ責任の押しつけの新自由主義が、こんな子どもが増えない社会にしたんじやないのかネ。

▲ようやくと給食費の無償化が進んできた。子どもの医療費のタダも進んできたが、義務教育を無償にするの憲法にはまだまだだ。これらを先んじた自治体には、恐ろしい事に国がペナルティーを付けていたんだ。地元も要求として請願があつても、自公が多数で反対し、要求を潰してきて経緯。我が市だって。

▲まゝ教育に金が掛り過ぎるんだ。軽くバイトをする位で、借金をしないで大学が終えられなければ、社会に出ても子どもを持つとうちは考えられまいよ。国防の金を人口増へ回せよ。急がないと日本人が居なくなる。（石川）

ひと

村山俊太郎・ひで夫妻

青山 崇

5人の子たちと新しく歩む

ひでのレッドページ⑤

せつ子の続きである。こんどおかあさんがくびになるときまいった。おかあさんはうちでし

先週の「わたしの家」

ました。（お母さんの家